

2025 年 5月14日

調 査 研 修 報 告 書 (議員用)

報告者：松本みのり

実施場所：北広島町芸北支所・雄鹿原診療所	実施日：2025年5月13日
■目的・課題・問題事項（調査・研修に先立っての思いや本市の現状 など） 能登半島地震での経験から、大規模災害時に孤立した集落に物資（医薬品）をドローンで届ける実証実験が、広島県危機管理課が主体となって行われるにあたり、現地で実際の様子を確認しながら話を伺う。一連の流れや、本市に当てはめた時の留意点、課題などを把握し、大規模災害時に孤立地域が出た場合に備えて出来ることを確認し、情報共有を行う。	
■参考とすべき事項 * 衛星インターネットにより、光ファイバーや、携帯電話基地局の被災時にWIFIスポット開設が出来る「スターリンク」は、県で4台保有し、北部地域にも1台可搬式のものが備えてあり、貸し出しが可能となっている。 * 「スターリンク」は、メンテナンス料など、月々の固定費が7万円弱と、日常的な利用が見込めないと単市での導入検討は難しい。 * スターリンクは、雨には弱いため、外に出すのはアンテナのみで他は室内に設置する。電源も必要である。 * ドローンは、基本は決められたルートを設定、入力しておき、自動操縦で飛ばされている。大規模災害時に孤立の可能性のある地域については、平時にルート確立を行なっておくとスムーズに事を進められる。	

■提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきか など）

- * ドローンのバッテリーは、正常に働ける温度が5℃から40℃の間とのことで、寒冷地での冬場の災害に備えて、バッテリーの耐寒性の向上が待たれる。
- * 県のドローン物資輸送マニュアルでは、医薬品の不足についてまずは市町で確保供給が原則で、万が一間に合わない場合には、県に対して供給要請書をFAXもしくは電話かメールでとの事。DX技術を用いた、より簡易な要請方法を県に求めているかどうか？
- * 今回は物資輸送の実証実験であったが、孤立地域に突然物資輸送がされることは想定しにくい。ドローンについては、まずはカメラによる被災状況把握、可能であればマイクによる会話等が行えるものを想定し、備えることが第一段階と考える。
- * 孤立の想定される地域について、平時にドローンの飛行実験を行い、あらかじめ航路を作っておくことを一考されたい。
- * 他の市町の危機管理課の方との情報交換の場としても貴重な機会だった。首長から「避難所に避難していない市民のために出来ることを考えてほしい。」との投げかけのあった担当課さんもおられた。共通の課題について、市町を超えて活発な情報共有が図られると良い。